



学校通信



尼崎市立武庫東中学校

令和7年度 3月号

文責:校長 仁科 良久

オリンピックが教えてくれたこと

令和7年度も、いよいよ最後の月を迎えました。

思い返せば、様々な子どもたちの姿が浮かびます。そして、そのどれもが、時に仲間と協力しながら、ひたむきに取り組む、とても尊く、すがすがしいものばかりです。

さて、先月はミラノ・コルティナ 2026 冬季オリンピックが開催されました。

まさに、世界中の国々を代表するスポーツマンが集まり、全力を尽くして競い合う、国境やイデオロギーを超越した、「平和の祭典」を象徴する大会でした。

多くの話題がありましたが、私自身は、「出場している選手同士の絆」が印象に残る大会でした。この絆が生まれてくる要因について、自身もジンバブエの元水泳オリンピック代表選手である、IOC のコベントリー会長は、開会式のスピーチで、こう語りました。

『私たちの強さは、互いをどう扱うかにあります。

人間の最良の姿は、勇気、思いやり、そして優しさの中にあります——

選手たちは、そう教えてくれます。』

『選手の皆さんを通して、私たちは「人間の最も美しい姿」を見ることができます。

「私たちも、勇敢であることができる。

私たちも、優しくなれる。

どれほど転んでも、また立ち上がれる」

——そう、思い出させてもらえます。』

選手たちは、想像を絶する努力を続け、何度でも失敗から立ち上がり、多くの人々に支えられて、オリンピックの舞台に立っています。そのことを、しっかりと自覚しているからこそ現れる、互いへのリスペクトや周囲への感謝等を、随所に感じる事ができた美しい大会でした。

本校の子どもたちにも、仲間と支え合い、競い合い、何度もチャレンジし続けることで、「絆」と「強さ」、そして「美しさ」を身につけて欲しいと、願わずにはられません。

まずは、子どもたちが、夢や希望を胸に、春の新しい旅立ちを迎えられるよう、しっかりと一年を締めくくりたいと思います。

